A 82　調理ずみ食品（そう菜）の利用状況について

昭和女大家政　○柴田由美子　山崎雅子　杉田浩一
昭和女大短大　　比護和子

目的　市販調理ずみ食品（そう菜）の伸びは著しく、その種類も昔ながらのそう菜とは性格を異にするものが登場し、非常に多彩になってきている。そこで個々のそう菜の家庭における利用の実態とその傾向について調査を行った。

方法　昭和58年7～10月、主婦を対象に質問用紙を配布し、有効回答約1500部を専業主婦、非専業主婦（職業を持つ主婦、パートを含む）に分けて検討を行った。

結果　1．利用状況：調査対象31品目のうちコロッケ、ギョウザ、シューマイは職業の有無にかかわらず、他品目に比べ利用する、よく利用すると答えた者の比率が高かった。弁当各種、持ち帰り寿司、ハンバーガー、サンドイッチなど主食的調理品も利用率は高く、とくに専業主婦の方が非専業主婦に比べ高い。煮物、きんぴら、うの花など在来の大衆そう菜とグラタンを除くデリカそう菜は、ともに利用率は低かったが、非専業主婦の利用率がやや高い傾向がみられた。2．味について：利用すると答えた人における味への評価は、各品目ともふつうという答えが多い。その中でおいしいと答えた比率が比較的高いのは煮豆、焼とり、ローストビーフ、赤飯、まずいと答えた比率が高いのは天ぷら、ロールキャベツ、スパゲティであった。3．おもな購入場所：スーパーでの購入が圧倒的に多い。デパートでの購入率は専業主婦が高く、中でもローストビーフ、オードブル、グラタンなどデリカ的なものが高かった。主食的品目はそう菜店・食料品店、その他での購入率が高い。4．利用時間：主食的品目の利用は昼食時に多く、他は夕食時に多い。特に専業主婦の主食的品目の昼食時利用率が非常に高率であった。